



園長先生のおはなし

11月の保育目標

「こころがけ」・・・領解(りょうげ)

私の好きな詩人の作品の中から紹介させていただきます。九条武子さんの歌です。九条武子さんは関東大震災で東京都が多くの被災者を出した時に、救護救護所や簡易食堂を開設されるなど、震災で残された子どもたちのために献身的に救済活動に当たった方です。

おいなる ものの力に ひかれゆく

わが足あとの おぼつかなしや

「自身で振り返る人生の足跡はおぼつかないものだけれど、他力(たりき)に導かれた生涯でした」という意味です。

自らも被災するなかで、他の人のために尽くされた九条武子さんですが、自分自身でできることは限られており、すべては人々の支えがある中で、さらに仏さまに見守っていただく中で成り立っているのであると、そう歌われています。

私自身、つい自分中心に物事を考えてしまうことがあります。原点に立ち返るために常に意識している歌です。

さて、今月の目標は **こころがけ・・・領解(りょうげ)** です。

領解とは仏さまの教えを聞いて悟ること、わかることです。私たちの日常会話では、

「了解(りょうかい)わかりました」という言葉を使っています。

一口に「わかる」といっても、頭で理解することもそうですし、心で通じ合う、共感することもこれに含まれます。ただ、いずれの「わかる」にも共通して言えることは、相手の言葉の奥にある思いを受け入れた時に「わかる」ということです。

みなさんはどうでしょうか？相手の意見を聞くときに、「どんな気持ちで伝えようとしているんだろう？」という風に相手の気持ちに立って、相手の言葉の奥にある相手の心まで理解できているでしょうか。実際はなかなか難しいかもしれませんが、意識することはできると思います。

今月もどうぞ宜しくお願い致します。